

ウミガラスを人気物にするための研究

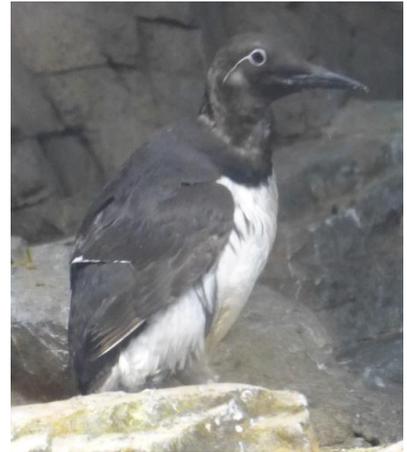


中尾小学校 4年1組 葛西 咲來

ウミガラスを人気物にするための研究

1, 研究のきっかけ

葛西臨海水族園でウミガラスを見たときにとってもかわいかったのに、なぜか、知名度が低く、お土産屋さんにもグッズもあまりなく、人気がなかったです。この水陸両用型の鳥の良さや人気物にするための方法を考えていこうと思います。このかわいい鳥をみんなに知ってもらうことで、関心を持つ人が増え、絶滅の危機から救うことができるかもしれません。



2, ウミガラスとは

体長38～45cm、体重1,160gの海鳥で、速く泳げて、飛べる鳥。大きな鳴き声で、「オロロン、オロロン」と鳴くことから、【オロロン鳥】とも呼ばれている。



3, ウミガラス5つの秘密

- ①泳げて飛べる ウミガラスは、何度も言いますが、泳げて飛べる鳥です。水族園では、その泳いだり、飛んだりする様子が見られます。
- ②巣を作らない ウミガラスは巣を作らずに、崖のようなところに直接卵を産みます。
- ③1年に1度しか卵を産まない。(一つのカップルにつき) ウミガラスは、1つの卵を大事に育てます。
- ④1年を通して、2種類の羽がある ウミガラスは、多くの鳥のように冬と夏で羽が違います。



←夏羽



←冬羽

(出典: 夏羽: TORI NOTE <https://torinote.net/2023-06-23-common-murre/>
冬羽: TORI NOTE [https://torinote.net/冬の道東\(4\)~ハシブトウミガラス、ウミガラ//](https://torinote.net/冬の道東(4)~ハシブトウミガラス、ウミガラ//))

- ⑤日本には北海道にしか生息していない 日本には、北海道の「天売島」にしか生息していません。



←天売島(出典: 全国旅行情報サイト「ジャパン・ヨンナナ・ゴー」
<https://www.japan47go.travel/ja/detail/deef6226-5f57-419b-87f5-be5cea67e2df>)

4, なぜ人気が出ないのか？

(私の仮説) 人気者のペンギンと間違えられている？

(実験) ウミガラスの水槽前で、「ペンギン」という人が30分でどのくらいいるか数えてみた

計測場所: 葛西臨海水族園 海鳥水槽

時間: 8/6(日)15:30-16:00

混雑状況: 親子連れを中心に、ひっきりなしに人が来る状況

(結果)

- 間違えて「ペンギン」と言われた回数 **65回**
- ウミガラスと言う人は、肌感覚ではその5分の1くらい
- 他に「ペリカン」1名

多くの人が、ウミガラスとペンギンを間違えている!!!



にているって
いわれます。

Pさん

取材結果、3:30-4:00

ペンギン... **65回**

ペリカン...1回

5, 私ならこうして人気者にする

5-1, ペンギンとの違いを明確にする

↓ ペンギン(左)とウミガラス(右)よく見ると色とくちばしと翼の形が違います。



5-2, デフォルメした、キャラクターにする (かわいいと思うポイント)

- ・くりくりのお目目
- ・目の周りの四分音符みたいな模様
- ・ユニークな鳴き声(オロローン)
- ・カラスにも、カモメにも人間にも弱い、そのか弱さ



5-3, 扱ってくれる水族館を増やす

2023年現在扱っている水族館は**とても少ない**です。その訳は、**許可を取るのがとてもむずかしい**からです。そのため、日本の水族館には、3館にしか展示していません。その3館とは、【葛西臨海水族園】【アクアマリンふくしま】【新潟市水族館マリニピア日本海】です。(2023年8月)私が実際に足を運んでウミガラスを見に行ったのは、【葛西臨海水族園】です。



6, 振り返り

今は、ウミガラスの数が安定してきてはいるけれど昔は漁網に引っ掛かったりカラスやカモメに食べられたりして一時期は十数羽に減ってしまったこともあったことを忘れてはいけません。なぜならこれからまた数が減ってしまうかもしれないからです。だから私はこれからもこのことをいろいろな人に伝えたいと思いました。

協力: 葛西臨海水族園

参考文献: オロロン鳥 北のペンギン物語(丸善ライブラリー)

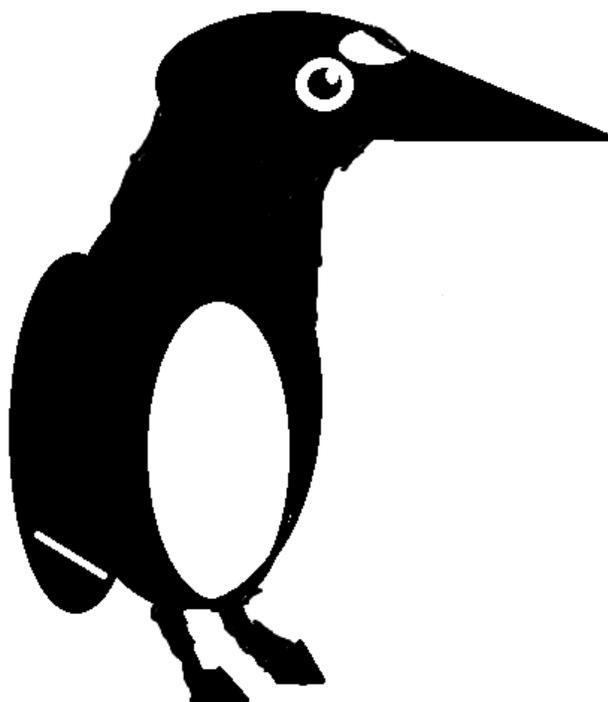
寺沢 孝毅 著

7, 追記

オオウミガラスと言う鳥は、【元祖ペンギン】で、1844年にもう絶滅してしまった鳥です。その鳥がなぜ「元祖ペンギン」かという、こんな歴史があったからなんです。

～オオウミガラスの悲しいノンフィクション～

オオウミガラスは、8世紀に発見され、1844年に絶滅した鳥です。その鳥は、発見された当時は、ラテン語で「太った鳥」という意味の【ペンギン】と呼ばれていました。この鳥昔は、人間が入ってこられない所に住んでいましたが、その場所は運悪く地震により溶岩に飲み込まれて、数を減らしました。しかし幸いにも生き残り別の場所に移り住んだオオウミガラスが50羽存在していました。ですがその場所は人間が立ち入ることを許してしまいました。北半球にしかいなかったその鳥は翼が小さくて飛ばせませんでした。そのうえ警戒心がなく食べるとおいしい羽毛は布団にしやすいとどんどん獲られて減ってゆきました。さらに、その鳥が少なくなって珍しくなってくると、剥製コレクターたちが欲しがり出し価格が上がったことからもっと大幅に数を減らし、1844年7月3日ついに最後の夫婦が剥製になり、卵が割れてオオウミガラスは絶滅してしまいました。その後南半球で似たような鳥(今のペンギン)が見つかり、その鳥の正式名称が【ペンギン】となりました。



オオウミガラス(パソコン制作)